

インターバンクの声（2017年1月27日）

トランプ米新政権の保護主義政策やドル高懸念発言などへの警戒感が強まったことを背景に、先週末のニューヨーク市場終盤以降の円相場は、円高・ドル安気味に動く時間が長く続いた。

火曜日の東京市場で112円台まで円高が進み、その後114円台に戻すことすら難儀していたため、昨日の東京市場の朝方に113円を割り込んでしまっていたら、昨夜のロンドン、ニューヨーク市場での円売り・ドル買いに繋がらなかったかも知れない。米国株や日本株が米長期金利の上昇やトランプ大統領の政策期待から上昇していたものの、円相場はなかなかドル買いに反応せず、相場がようやく動き出したのは、昨日のロンドン市場の朝方だった。

最近の市場で余り聞かれなかった欧州勢を中心としたドル買いが3日ぶりに114円台後半までドルを上昇させるきっかけを作ったようだ。米長期金利が前日の水準からさらに上昇していたことや114円台前半のチャートポイントを抜けたことで勢いが付いたようだが、トランプ大統領のメキシコ国境での壁建設計画実施方針などを見ると、日本にも貿易交渉や為替問題で強い譲歩を迫ってきそうで、どうにも簡単にドル買い姿勢に戻ることは腰が引けてしまう。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。